

便秘改善の健康食品

岐阜薬科大と総合食品メーカー「アピ」開発



下痢などの症状少なく

岐阜市の岐阜薬科大学と総合食品メーカー「アピ」(同市)は22日、科学技術振興機構(JST)の資金援助で共同研究してきた便秘改善作用がある健康食品について、東南アジア原産の植物「沈香(じんこう)葉」の抽出物から開発に成功した、と発表した。開発した健康食品は、下痢などの症状は極めて少ないという。今後は、国の特定保健用食品の認可を視野に商品化を進める。

(河合修)

4年がかりの研究実る

研究では、沈香葉から抽出したポリフェノールの一種「ゲンクワニン配糖体」が腸の運動を活発にする点に着目。沈香葉の調達や成分の抽出、粉末化など事業化を見据えて有効性、安全性などを4年がかりで確認し、同日までにJSTから開発成功の認定を受けた。

開発した健康食品を前に
会見する原英彰教授、野
々村孝彦社長、飯沼宗和
教授(右から) 岐阜市
役所

この日は、研究に関わった同大薬効解析学研究室の原英彰教授(54)、同大生薬学研究室的飯沼宗和教授

(64)、同社の野々村孝彦社長(49)らが会見。同大は「研究成果から食品開発に成功した岐阜発の事例」、同社は「産官学連携のケース・スタディー」として発信したい」などと語った。

研究をめぐっては、6年前に原教授と飯沼教授が同配糖体から便秘改善作用を発見。JSTの事業として、同社が2007年12月から11年12月まで同大と実用化を視野に共同研究を進めていた。